

施策番号	551	施策名	住民のまちづくりの推進	主管課名	まちづくり課
総合計画 体系	政策名	5	みんなでつくる里づくり	令和 2 年度課長名	小林 英将
	関係課名		くらし安全課	シート作成者	柳井 和彦

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 町民	→	ア	町民人口	人	見込値 実績値			12,143	11,970	11,800
						12,926	12,754	12,625		
イ 自治会	→	イ	自治会数	団体	見込値 実績値			93	93	93
						93	93	93		
ウ	→	ウ			見込値 実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 積極的に行政活動に参加してもらう	→	ア	行政活動や政策に関心がある町民の割合	%	目標値	56.0	58.0	60.0	50.0	51.0
					実績値	44.5	49.3	56.3		
					達成率	79.5%	85.0%	93.8%	112.6%	110.4%
イ 参画意識を持ってもらう	→	イ	行政活動に対して意見や参加をしたことのある町民の割合	%	目標値	26.0	28.0	30.0	11.0	12.0
					実績値	10.6	8.8	12.7		
					達成率	40.8%	31.4%	42.3%	115.5%	105.8%
ウ 積極的に地域づくり活動をしてもらう	→	ウ	地域活動に参加している町民の割合	%	目標値	53.0	54.0	55.0	45.0	47.0
					実績値	43.5	42.7	45.3		
					達成率	82.1%	79.1%	82.4%	100.7%	96.4%
エ	→	エ			目標値					
					実績値					
					達成率					
⑤ 成果指標設定の考え方		ア) 行政活動や政策への関心が高まれば、活動に参加してもらえる人数が増加すると考えられるため。 イ) 活動に参加したことのある割合により、意識の高低がわかると考えられるため。 ウ) 意図に対する直接的な設問であるため。		⑥ 成果指標の把握方法と算定式等		ア)イ)ウ) 町民アンケートにより把握				

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 自主的・自発的に行政活動や地域行事に参加する。 地域が主体性を持ち、自ら地域活性化のための活動を企画するとともに実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 町民が行政活動や地域行事に参加できるよう、十分な情報提供を行い、積極的な参加の推進を図る。 地域の主体的な活動に対し、未来・希望基金事業などを通じて支援を行う。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因	
2 年度の 評価結果	① 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)
	<p>・町民アンケート結果では、「行政活動や政策に関心がある」町民の割合は、ほぼ50%程度で推移していたが、令和2年は56%と高くなった。要因としては4年に一度の町長・町議選挙の年であったためと考えられ、特に町長選については久しぶり選挙になったことも要因と考える。「行政活動に対して意見や参加したことがある」町民の割合も増加し、選挙年の影響と考えられる。</p> <p>・「地域活動に参加している」町民の割合については、行政活動の参加に比べると割合としては高い。</p>
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input type="checkbox"/> 低下した
2 年度の 評価結果	② 他団体との比較 (近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)
	<p>・他団体の資料がないため、比較できないものの、岡山県の実施する元気集落事業等、地域住民が主体となる活動に対する補助金交付等の類似事業は県内各地で展開されている。隣の津山市においては、財源的な要因もあり、令和2年度からの事業を縮小する判断がなされた。</p> <p>・鏡野町の場合は、平成22年度から鏡野町未来・希望基金事業を立ち上げ実施しており、令和2年度で11年目を迎えたが、ここまで継続されているまちづくり事業は、県内でもあまり例がない。</p>
	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
2 年度の 評価結果	③ 住民の期待水準との比較 (住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?)
	<p>・町民が自主・自発的に行う公益的なまちづくり活動・地域活動に対し、地域課題を協働で解決できるように、地域と行政の相互補完的な関係を目指すため鏡野町未来・希望基金事業を実施しており、制度としては定着しつつある。</p> <p>・令和2年度以降の事業について、「継続実施してほしい」との要望がなされた。町民との意見交換の中で、事業実施の方法や担い手の不足問題あるいは若い世代との交流が難しいといった意見も多く出ており、住民の期待度は高い中で、こうした課題解決に向けて支援をして行く必要があると考えている。</p>
	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
2. 施策の成果実績に対する 2 年度の取り組みや目標達成度	
2 年度の 評価結果	■ 2 年度の主な取り組みの成果(改革改善した取り組み、目標の達成度は?)
	<p>・令和2年度から第3期未来希望基金事業が始まり、新たに対象事業が追加された。事業が追加されたことにより各地域づくり協議会の事務負担が増えており、新たな取組を行えないという地域づくり協議会もある。今後の各地域づくり協議会の運営を強固にするためには事務局の力を高める必要があるということから、NPO法人みんなの集落研究所の力も借り、要望する地区に対し伴走支援活動などを実施してきた。</p> <p>・令和2年度には各地域づくり協議会の代表者が集まり、鏡野町地域づくり連絡協議会が発足し、各地域づくり協議会の状況について情報共有し、今後の事業改善を図っていく。</p>
	<input type="checkbox"/> 目標値以上 <input type="checkbox"/> 目標値どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標値以下
3. 施策の今後の課題と改革改善の方向(うまくいかなかった取り組みや事務事業は? その原因は?)	
2 年度の 評価結果	<p>・第3期未来・希望基金事業(5年間)が令和2年度より実施され、今後も、地域が主体となって活動していくことに対する支援は行っていきたい。最終的に目指すべきところは地域の自立であるが、そこに到達するまでは、まだまだ基金事業のやり方改善等行っていく必要があると考えている。</p> <p>・現在の鏡野町においては、地域活動に参加している町民の割合は若年層では低い傾向や、山間部のほうが高い傾向がなぜかということを考えてるとともに、子どもから高齢者全ての方が地域行事に参加しやすい環境を作っていくことに努めたいと考えている。</p>